

## 汚名返上？

道警は、昨年度内で起きた交通事故による死者数が190人に止まり、1949年以来実に62年ぶりに200人を下回ると共に、全国ワーストワンも2年ぶりに返上したと発表しました。

また、昨年発生した人身事故は1万6395件と前年と比較すると1693件の減、これに伴って負傷者も1万9705人と前年に比べ2391人の減となっており、こちらの方も1966年以来45年ぶりに2万人を切っています。

北海道では、かねてから交通事故の多さが社会的にも大きな問題となっており、道警はじめ関係者が交通事故撲滅のために精力的な活動を続けてきました。

昨年は、その成果が現れたといえますが、同時に、東日本大震災や高速道路無料化の影響などから、一般道路を走る車の台数が減少したことも背景としてあったのではないかという意見もあり、昨年の結果が一過性でないことを期待したいと思います。

北海道は、道路の整備が進んでおり、車線の幅も広くスピードが出やすいといわれて来ました。また、郡部では、走っている車の台数も少なく、一般道を高速道路並の猛スピードで走っている車と出くわすことがあります。運転席に座ると人格が変わる人がいるという話を良く聞きますが、自己中心的で、周りが見えなくなる様な状態で運転されれば、どんな車も走る凶器に早変わりです。

これまでの交通事故を見ていると、そのほとんどは避けられた筈のものです。ドライバーのちょっとした心遣いさえあれば、交通事故は起きなくて済みます。

私が東京から戻ってきてまず感じたのは、ドライバーのマナーの悪さでした。

交差点で、信号が赤なのに発進する車、黄色が点滅しているのに、猛スピードで進入してくる車、頻繁に車線を変更して、車の間を縫うように走って行く車、ウインカーを上げずに突然方向転換する車、挙げればきりがありませんが、そうした車のドライバーは、恐らく「自分は運転がうまい」という自信を持っているのでしょうが、周りのものにとっては迷惑千万という他ありません。

また、飲酒に伴う事故での死亡者が13人（7%）もいることや、乗車中の死者102人中シートベルトを着用していなかった者が45人（44%）おり、

このうちの6割は、シートベルトを着用していれば助かった可能性があるということを知ると、ドライバーはもとより自動車を利用する人の安全に対する意識の低さは、誠に遺憾といわざるを得ません。

更に、マナーの悪さは、自動車のドライバーに限りません。自転車の運転も相当に悪いですね。交差点を、常に自分たちが最優先とばかりに、周りの状況を全く考えずに走る自転車を見ると、自殺行為としかいいようがありません。また、歩道を歩いていて、後ろからぶつけられそうになったこともあり、歩道といえども安全とはいえなくなっています。

本格的な冬の季節の中、車道の幅は雪で狭くなっていますし、視界も悪くなりがちです。更に、道路は滑りやすくなりますので、ドライバーの皆さんは十分気を付けていただきたいと思います。

私がかつて自動車運転を習っていた時、教官から、基本的に「急」の付く運転をしてはならないと繰り返しいわれました。即ち「急発進」「急ブレーキ」「急ハンドル」ということですが、冬道では特に心すべき事です。

交通事故は、もらい事故もあって絶対に防ぐということは不可能かも知れませんが、ドライバー、自転車の運転者、更には歩行者の皆さんが、それぞれ事故を起こさないよう、事故に遭わないよう気を付けることによって、もっともっと減らすことができる筈です。

北海道の道路を快適なものにするには、そのちょっとした心遣いこそ重要です。(塾頭 吉田 洋一)